

令和5年度 宮崎県立都城農業高等学校 第59回入学式 校長式辞

桜の木々が柔らかな緑の葉を纏い始めた今日の佳き日に、本校PTA会長様・副会長様のご臨席、並びに、保護者の皆様のご出席を賜り、第五十九回入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであります。

ただいま入学を許可されました二百五名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、名実ともに宮崎県立都城農業高等学校の生徒となりました。心待ちにしていた高校生活がいよいよ始まります。

どうか、今のその晴れ晴れとした気持ちを大切にしながら三年間の高校生活を送ってください。また、お子様の成長を見守り励まされ、この日を心待ちにして来られた保護者の皆様方にも、本校職員を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。

さて、本校は、大正五年に北諸県郡立農学校として開校し、今年で創立百八年目を迎える歴史と伝統のある農業高校です。卒業生は農畜産業をはじめとする産業の担い手として、あるいは、公務員や教職員等、様々な分野で活躍しています。

また、創立百周年の機会に、新たな校訓である「自他敬愛」「知徳耕道」「見聞知行」が定められました。

この校訓は、本校が「思いやりの心を育てる場所」であるとともに、農業や農業関連産業に関する学びを通して「国や地域を支える産業人になるための知識や技術を身に付けられる場所」であることを表しています。

そして、これからの変化の激しい時代に柔軟に対応できる人となるためには「見て、聞いて、知って、実行する」という学びが大切であることを教えています。

新入生の皆さんは校訓の意味を理解するとともに、地域の期待に応えられるよう有意義な高校生活を送ってほしいと願っています。

ところで、皆さんは小学校から中学校卒業までの間、日本国憲法のもと、保護者が施さねばならない義務としての教育を受けてきました。しかし、高等学校は義務教育ではありません。

生徒の皆さん一人ひとりが「将来、こういう仕事をしたい。」「こういう人になりたい。」という目標を立て、普通教科と専門教科のいずれにも自らの意思で取り組まねばなりません。デュアルシステムやインターンシップ等、学校外で行う実践的な実習にも前向きに取り組む必要があります。

その他、学校行事や部活動、ボランティア活動等にも積極的に参加し、自立すること、協力し合うこと、努力することの大切さを学んでほしいと思っています。

高校三年間は長いようで短いものです。高校卒業後、就職するにしても進学するにしても一日一日の積み重ねがなければ納得のいく結果を得ることはできません。これからの変化の激しい時代に、柔軟に対応できる力を身に付けるためにも、将来の目標とともに行動計画を立てて日々実行するようお願いいたします。

高校生活では経験したことのない壁に突き当たり、悩み落ち込むことがあるかもしれません。そういう時は身近にいる先生方、あるいは上級生に相談してみてください。きっと、親身になって話を聞いてくれるはずです。そして、参考になるアドバイスをもらい、元気を取り戻すことができるでしょう。

また、普段は優しい先生方が、場合によっては厳しく指導されることがあるかもしれません。その時は、皆さんの成長を願う気持ちの表れと思って、指導を受け止めるとともに、何のために高校へ入学してきたのかを思い出してください。そうすれば指導を受けた理由が理解でき、自分の成長に生かすことができるはずです。

ここで保護者の皆さまにお願いを申し上げます。本日より、大切なお子様を本校でお預かりいたします。高いところから誠に恐縮に存じますが、ご家庭におかれましては、ぜひとも学校の教育方針をご理解いただきますとともに、学校と連携して、これからの社会を担う貴重な人材として育てるためのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

三年以上に及んだコロナ禍の世界は変わりつつあります。新入生の皆さんの高校生活が、夢と希望に溢れたものとなるよう心から願い、式辞といたします。

令和五年四月十一日

宮崎県立都城農業高等学校 校長 山下 勉

自他敬愛	・・・	自分や他人を大切にし思いやる心を育てる
知徳耕道	・・・	農の力をもって知識、人格を耕す、磨く
見聞知行	・・・	見て、聞いて、知って、実行する